



主催：数電機連携プログラム推進室

数理科学的発想と工学的発想を兼ね備えた
理工横断型人材育成をめざして

第12回

数電機キャリアパスセミナー

開催日： 2011年6月8日（水曜日）

開催時間： 16:30-17:30

（17:30-18:30 懇談会・討論会）

開催場所： 首都大学東京12号館106教室

講師： 石塚 真一 氏

（サイバネットシステム株式会社）

講演題目： 「近くて遠くて“数学と工学”」

～なぜ、コミュニケーションできないか？～

講演概要

高等学校ぐらいまでは数学系と工学系に行く人間は、“大体同じ人種”であったと思います。いわゆる「理系」。それが大学で専攻が分かると、工学系の中には、「数学は苦手」と言う人も少なくありません。企業に入るとその傾向は一層に加速し「数学は役に立たない！」と断言するエンジニアも多数います。なぜでしょう？

工学系では「数学は問題を解くための道具だ」と考えられる方々がかなりいます。つまり数学的成果を工学に応用する、という考え方です。確かに、いわゆる解析学と称される学問は、“道具としての数学”の役割もあります。しかし、私はこの考えに違和感があってなりません。制御理論や符号理論などに代表されるように、工学問題から数学問題へ昇華したものは多数あり、本来、もっと一心同体であるべきだと思っております。

数学と工学を隔てているものは何か？数式処理、数値計算、シミュレーションツールの技術支援業務を通して、多くの方と接してきた経験から、数学と工学の融合を図るヒントを考えたいと思います。

主催：数電機連携プログラム推進室

（首都大学東京・理工学研究科、

数理情報科学専攻・電気電子工学専攻・機械工学専攻）

192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

問い合わせ先：数電機連携プログラム推進室

Tel:042 (677) 2466 内線(3158) （担当：酒井） E-mail: sakai-t@tmu.ac.jp